

# SEO



OutSystems における SEO 対策について

「サイトの認知度を上げたい」、「集客効率の向上を図りたい」、「新規顧客を獲得したい」、など様々な目的で多くの企業が SEO 対策を実施しています。SEO 対策は、OutSystems で作成したアプリケーションでも実施することが可能です。本書では、SEO 対策の概要と OutSystems が標準で用意している SEO 対策に焦点をあててご紹介します。

## 目次

SEO 対策とは .....	3
SEO 対策の種類 .....	3
OutSystems の SEO 対策 .....	5
Page Rules ・ Custom URL .....	6
Module Alias rules .....	9
Site Rules .....	10
Redirect Rules .....	11
おわりに .....	12

## SEO 対策とは

SEO とは Search Engine Optimization の略語であり、日本語にすると検索エンジンの最適化を意味します。最適化を実施することで、検索エンジンが「該当の Web サイトは、より露出するべきサイト」と判定し、検索結果の上位に表示されるようになります。継続的に検索結果の上位に表示させることで、多くのユーザーがサイトに訪問するようになり、その結果サイトの認知度の向上や、自社のブランディングの強化につながります。

### SEO 対策導入のメリット

- ・検索結果として上位に表示されるので、サイトへの集客率が上がる
- ・サイトの集客率が上がることにより、企業のブランディング強化につながる
- ・広告やダイレクトメールなどの集客方法に比べて、手軽に・低コストで導入できる

## SEO 対策の種類

SEO 対策は大きく内部施策と外部施策の 2 つのカテゴリに分けることができます。

内部施策は自社サイト内でコンテンツやサイト・リンク構造の最適化をおこなう対策で、外部施策はサイト外からサイトを高く評価してもらうための対策を指します。

内部施策では、主に 2 つの対策が実施されます。

### ① 検索エンジンにコンテンツを読み取らせる対策

該当のサイトが何を紹介しているかを明確化する対策です。例えば、タイトルや h1 タグに対策キーワードを組み込んだり、見出しタグ (h1~6) の構造を意識してサイト作成を行ったりすることで、サイトの目的をはっきりさせます。そうすることで検索エンジンがサイトの理解度を深め検索結果として反映してくれるようになります。

### ② 検索エンジンの巡回(クローリング)を促進させる対策

検索エンジンが素早く巡回できるよう手助けする対策です。検索エンジンは周期的に Web サイトのあらゆる情報を取得し、検索用データベースのインデックスを作成しています。このインデックスが作成されることで検索結果として表示されるようになります。XML サイトマップの作成やパンくずリストの設置、わかりやすい URL (パーマリンク) を設定することで、サイトの目的が明確化し、Web ページが易く見つけやすくなりクローリングも易くなります。その結果、新規作成したコンテンツ等も検索結果として素早く反映してくれるようになります。

外部施策でよく実施される対策は主に次の2つです。

① 被リンクの獲得

外部のサイトに自サイトの Web リンクを貼ってもらう対策です。外部サイトから自サイトのリンクが増えることで検索クローラーが発見しやすくなり、その結果ユーザーに何度も自サイトに訪問してもらえるようになります。

② サイテーションの獲得

ネット上で企業名、サイト名、電話番号などが掲載されることです。SNS での口コミなどが他社メディアで取り上げられることで、ユーザーの認知度が増えサイト訪問数の増加が見込めます。多くのユーザーが閲覧するような影響力のあるメディアで取り上げられた場合、より大きなサイテーションの効果が得られます。

SEO 対策にはいくつかのアプローチがあり、それぞれを組み合わせることで大きな結果を生み出すことができます。次の章では OutSystems における SEO 対策について説明していきます。

## OutSystems の SEO 対策

OutSystems でも SEO 対策を講じることは可能であり、製品が標準で用意している設定が 5 つあります。アプリケーションタイプによって導入できる対策が異なるためご注意ください。アプリケーションタイプとは、OutSystems で作成できる Web アプリケーションの種類で、Traditional Web、Reactive Web の 2 種類のタイプがあります。どちらも Web アプリケーションを作成できますが、バックグラウンドの仕組みが異なります。Traditional はアプリケーションの処理をサーバー側のみで構築していくのに対し、Reactive はサーバー側、クライアント側に分けて作りこむことができます。どちらを利用するかはアプリ構築の際にご確認ください。

表 1.Outsystems が標準で用意している SEO 施策

No	設定	Traditional Web	Reactive Web
1	Page Rules	○	×
2	Custom URL	×	○
3	Module Alias Rules	○	×
4	Site Rules	○	○
5	Redirect Rules	○	○

どの内部施策も検索エンジンの巡回(クローリング)を促進させる対策で、設定を取り入れることでサイトの目的が明確になり検索結果の上位に表示されるようになります。

実際にどのように導入していくのかを順に紹介していきます。

## Page Rules ・ Custom URL

Page Rules、Custom URL は、サイトの URL 情報を関連キーワードに変更することで、そのページのコンテンツを明示化することができます。それにより検索エンジンがキーワードをタグ付けしやすくなるためクローリングの効果が向上します。その結果、検索結果として上位に表示されるようになり、ユーザーの訪問数が増加します。

Page Rules と Custom URL の設定方法はそれぞれ下記の通りです。

### Page Rules

Page Rules は Service Center で設定します。

図 1. Page Rules の設定画面

#### 【設定値】

- ・ Module : 設定を行いたいアプリケーションを選択
- ・ Web Screen : 設定を行いたい画面を選択
- ・ URL Pattern : URL の画面名・入力パラメータの部分を任意の表示形式に設定  
(変更前後の表示形式は、図 2 の通り)

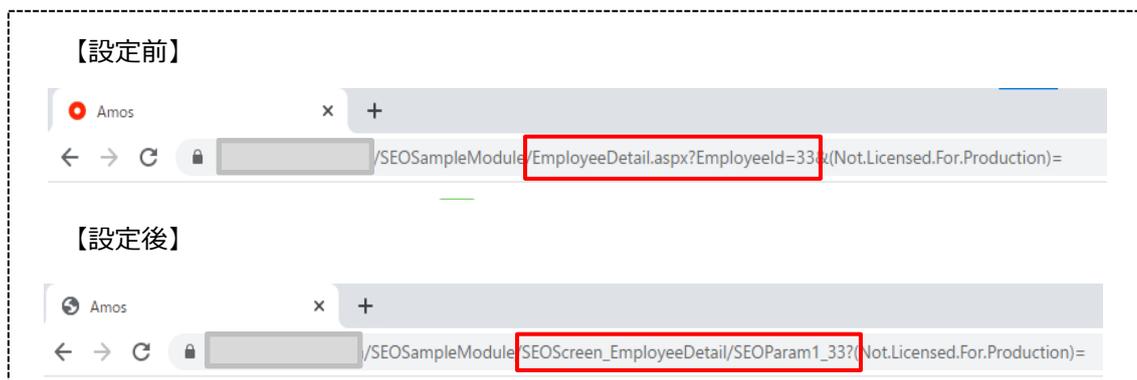


図 2. Page Rules の変更前後の URL

## Custom URL

Custom URL は Service Studio で設定します。

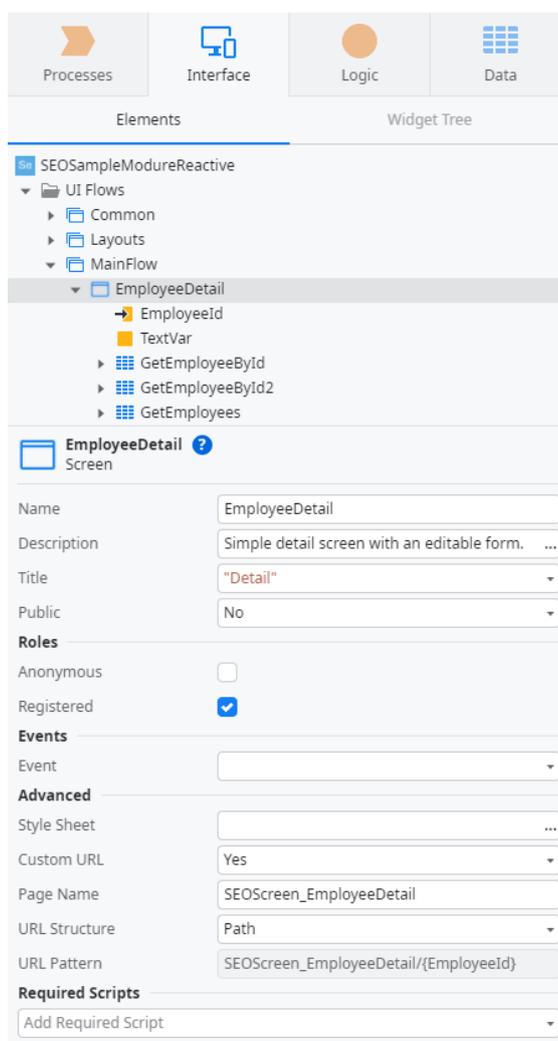


図 3. Custom URL の設定画面

## 【設定値】

- Custom URL : [Yes]に設定すると、Screen の URL を任意の表示形式に設定
- Page Name : URL の画面名の部分を任意の表示形式に設定  
(変更前後の表示形式は、図 4 の通り)
- URL Structure : [Path] と [Query string] のどちらかに設定  
Path に設定した場合 : / で区切られたパラメータを URL に表示  
例: /Product/1 (変更前後の表示形式は、図 4 の通り)  
Query string に設定した場合 : パラメータを文字列として URL に表示  
例: Products?Id=1
- URL Pattern : 上記で設定した内容のプレビューが表示

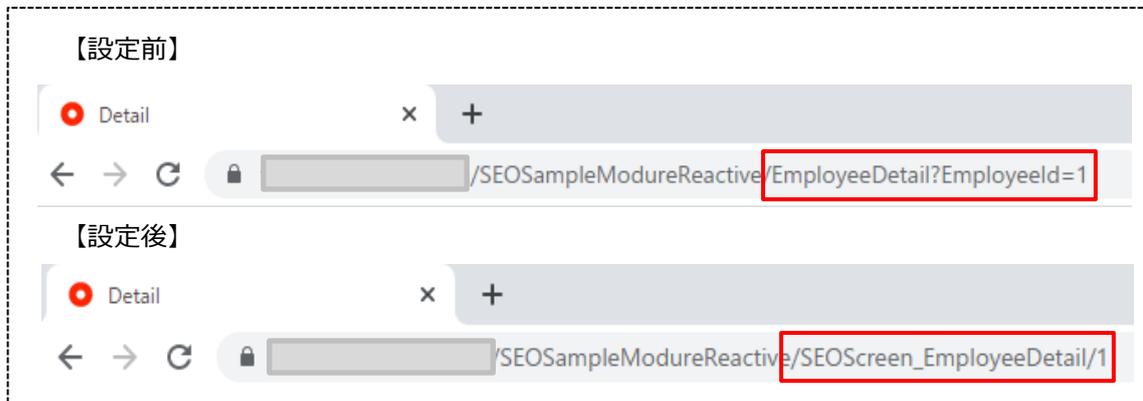


図 4. Custom URL の変更前後の URL

## Module Alias rules

Module Alias Rules は、URL のモジュール名の箇所を任意の名称に変更できます。

モジュール名を明示化することで、先ほどと同様に検索エンジンがキーワードをタグ付けできるようになり、クローリングの効果が向上します。

図 5.Module Alias Rules の設定画面

### 【設定値】

- Module : 設定を行いたい対象のモジュールの選択
- Alias : URL のモジュール名の部分を任意の表示形式に設定  
(変更前後の表示形式は、図 6 の通り)

**【設定前】**

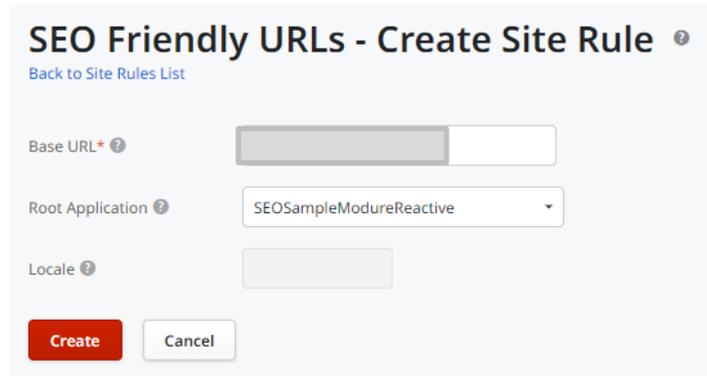
**【設定後】**

元々のモジュール名でも、任意の設定したモジュール名でも接続可能になります

図 6.Module Alias Rules の変更前後の URL

## Site Rules

Site Rules の効果もこれまで紹介した 3 つの対策と同じです。指定した URL を指定したモジュール名として設定することができ、URL を省略または簡略化することができます。無駄な情報を省き、検索結果にヒットさせやすいようにすることで最適化できます。



The screenshot shows a form titled "SEO Friendly URLs - Create Site Rule" with a "Back to Site Rules List" link. The form contains three input fields: "Base URL\*" (with a help icon), "Root Application" (a dropdown menu showing "SEOSampleModureReactive"), and "Locale" (with a help icon). At the bottom are "Create" and "Cancel" buttons.

図 7. Site Rules の設定画面

### 【設定値】

- Base URL : 設定を行いたい URL を指定 (変更前後の表示形式は、図 8 の通り)  
今回はモジュール名をすべて省略するようにドメイン名のみを指定
- Root Application : 指定した URL に対して、対応するモジュールの選択
- Local : 指定した URL に対して、Locale を指定できる。  
この設定と多言語 Web アプリケーションを併用することで、対応した言語に遷移する URL を作成可能。(Traditional Web のみ設定可能)

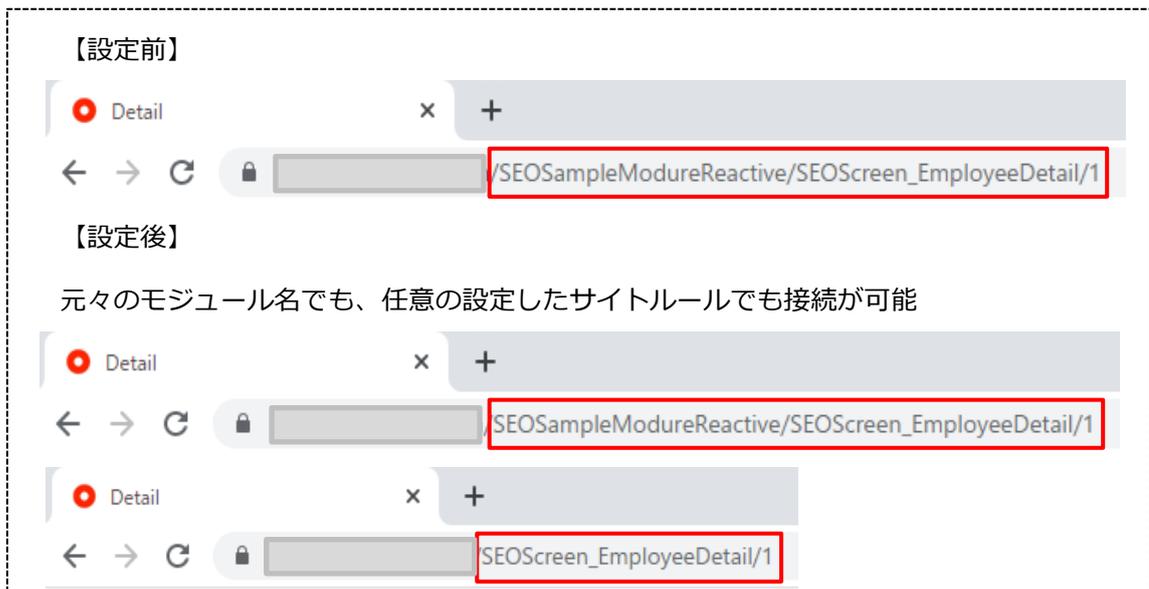


図 8.Site Rules の変更前後の URL

## Redirect Rules

Redirect Rules はドメインが変更された場合などに古い URL が指定された際、新しい URL を指すようにリダイレクトの設定を行うことができます。古い URL からのアクセスを維持でき、ドメインが変更されたことを検索エンジンが認識できるようになるため、これまでの検索エンジンのランキング情報に影響を与えないようにすることができます。

図 9. Redirect Rules の設定画面

### 【設定値】

- ・ Base URL : 設定を行いたい URL を指定 (基本的に旧ドメインを設定)
- ・ Replace URL : 変更後の URL を指定 (基本的に新ドメインを設定)

## おわりに

今回は OutSystems で SEO 対策を導入する方法を紹介しました。紹介した内容は内部施策の一部ですが、これらを取り入れるだけでもサイトの目的が明確になり検索結果の上位に表示されるようになります。SEO 対策自体はマーケティング施策の中でも手軽に導入することができる施策の一つです。効果を実感するまでに時間はかかりますが、サイトを長期的に運用する必要がある場合に有用とされています。顧客獲得、企業のブランディングを検討している方、手軽に始めることができる SEO 対策から導入してみたい方はいかがでしょうか。

tdi では、OutSystems の機能や技術について十分な知識を持った多くの技術者を有しており、資格保有者数は国内トップクラスです。ローコード開発が一般的に注目される以前（2016 年）から重ねた OutSystems 開発の実績をもとに、IT 戦略コンサルティングや OutSystems 導入から運用までをトータルサポートします。また、お客様に合わせた人材育成や内製化もご支援いたします。本件を含め、何かお困りごとがございましたらどうぞお気軽にお問合せください。

### 【ローコード開発基盤「OutSystems」】

<https://www.tdi.co.jp/outsystems/>

### 【お問い合わせ】

<https://tdi.smktg.jp/public/application/add/1095>



情報技術開発株式会社 営業本部

東京: 〒163-1332 東京都新宿区西新宿六丁目 5 番 1 号 新宿アイランドタワー32 階

TEL : 03-5325-4811 (代表) FAX 03-5325-4812

中部: 〒451-6027 愛知県名古屋市西区牛島町 6 番 1 号 名古屋ルーセントタワー27 階

TEL 052-571-6871 (代表) FAX 052-571-3856

関西: 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島二丁目 2 番 7 号 中之島セントラルタワー20 階

TEL.06-6201-7739(代表) FAX.06-6201-7740

九州: 〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東二丁目 10 番 1 号 福岡ビル S 館 7 階

TEL.092-451-8218(代表) FAX.092-474-7379